

学校選択制に関する学校アンケート結果

平成28年9月実施

【アンケートの内容について】

- ◇目的
学校選択制についての各学校の意見や学校運営への影響等についてアンケートを実施し、今後の制度の在り方について検証する。
- ◇調査対象
市内全小中学校
- ◇回答数
26校（全体の100%）

問1 江別市では、平成17年度に学校選択制を導入し今年で12年目を迎えました。学校現場における学校選択制のメリット及びデメリットについて、どのようにお考えですか。

(1) メリット

①【選択肢が広がる、魅力のある学校を選べる】13件

- | | |
|----|---|
| 1 | 保護者・児童生徒は、希望する教育を選択することができる。 |
| 2 | 子どもの実態に応じて、特色のある学校教育の選択肢が広がるため、個性の伸長につながる。 |
| 3 | 校区の小中学校で自分のやりたい部活が無いときに他校を選択できる。 |
| 4 | 選択肢が広がる。 |
| 5 | 部活動の関係でも良い。 |
| 6 | 保護者・児童生徒にとって、自分の考え方や活動を生かせる学校を選べる。 |
| 7 | 保護者が、学校規模や特別支援の体制のちがいなど学校の特色によって、我が子にあった学校を選択できること。 |
| 8 | 保護者・児童のニーズにあった学校が選択できる。 |
| 9 | 学校の持つ特色を生徒や保護者が選べること。 |
| 10 | 入学者及び保護者が各学校の特色等を理解して、自己責任の下、学校を選択できることはメリットである。 |
| 11 | 学校の選択肢が増えるのは、学習面、生活面、部活動の面など、より子ども自身に合った学校に通うことができると思います。 |
| 12 | 部活動の選択の幅が広がること。 |
| 13 | 一斉公開日の授業の様子や部活動の結果など、様々な要素から学校を選ぶことが可能になっている。 |

②【人間関係のトラブル解消】 7件

1	幼稚園等の幼児期において、交友関係などがうまくいかなかったときなどに他校が選択できる。
2	集団を変えることで人間関係を改善できる。
3	在籍校におけるリスク（人間関係等）を回避できる。
4	小学校時のトラブルが尾を引いたままの生徒（保護者）にとってはリ・スタートできる。
5	入学者が小学校時代の間人間関係等で課題を抱えている場合など、特別な措置としてではなく、制度にのって、学校を選択し、リセットできることはメリットである。
6	小学校時の悪い人間関係を切ることができること。
7	新たな環境、人間関係の中で学習ができる。

③【通学距離、安全面を考慮できる】 1件

1	地理的条件による通学距離の選択ができること。
---	------------------------

④【学校、保護者の変化】 11件

1	中学校の部活動の活性化が図られていると考えます。
2	個々のニーズに合わせた教育が行える。
3	進んで選択していただいているだけあり、保護者の学校に対する理解・協力が深く、PTA活動にも協力的である。
4	選択してきて入学していることは、その学校の良さを理解しているということなので、学校として心強いと思う。
5	保護者の学校教育に対する関心が高まる。
6	選ばれる学校側も、それぞれの学校の特色を出すために、工夫がなされ学校力が高められるとともに、学校改善がすすめられやすくなっていく。
7	学校の教育活動に対する関心が高まり、子どもたちの成長の様子などを保護者の方がよく見てくれている。また、一斉公開日の際に多くの来校者があり感想や意見などを寄せてくれている。
8	選択の際に各校の教育課程等に関心をもってもらえる。
9	部活動を理由に選ぶ生徒は、熱心に取り組んでいる。
10	学校のカラーを強くアピールできる。これに賛同してくれる保護者・生徒が増えることにより、そのカラーを強く推し進めることができる。
11	入学者増を目指し、各学校が特色ある学校づくりを推進することはメリットである。

⑤【その他】 8件

1	特にメリットを感じません。
2	地域以外の児童生徒同士の交流ができる。
3	僅小差を抱える学校では、メリットがあると思う。
4	学級定員が一人入ることで学級増になることもある。
5	小学校の場合、本来校区外の児童が一定程度入学することで、児童の雰囲気が活性化している。
6	学級減の可能性のある学校にとって、必要な人数を確保できる可能性がある。
7	目的をもって入学してくるので、本人の意欲が学校生活にプラスになる。
8	本校では、学級数維持につながることもある。
9	本校にとっては全くありません。

(2) デメリット

① 【通学上の問題】 9件

1	通学距離が長くなるに伴う安全確保の問題があります。
2	登下校の安全の確保について、校区外通学の児童は保護者に頼らざるを得ない。
3	登下校の際の安全面（比較的近い児童は徒歩で登下校する）。
4	通学路外からの通学の危険性。
5	隣接地区の児童であれば、通学に遠距離にならないが、通学区が離れている場合には、時間などの制限が受けやすくなる。
6	通学距離が長くなり負担がかかる。
7	登下校の安全対策の問題。
8	本来の校区が狭いということもあり、遠距離通学の生徒が増え、生徒の安全面（特に登下校）が（学校の指導体制や責任問題も含めて）心配。
9	必然的に通学距離が広がり、登下校の危険が広がる可能性がある。

② 【学校間格差の拡大】 4件

1	学校によって人数のかたよりが生じる可能性がある。
2	部活等の強さがかたよる可能性がある。
3	本校校区はもともと子どもが少なく、選択制により他校へ行く児童もいるため、入学者が減少しています。
4	部活動に関しては、スポーツ少年団、野球・バスケ・バレー・サッカー・卓球など特定の学校に集中している現状があること。

③ 【地域とのつながりの希薄化】 9件

1	根本のところ「地域の子どもは地域で育てる」のが子どもの成長からしたらよいと思われる。「学校を核とした地域創生」が言われる中、校区を中心とした就学が望ましいと考える。
2	地域の同学年の児童生徒との触れ合う機会が乏しくなる。
3	居住する地域が違うことで、学校行事だけでなく地域の行事等への参加ができたりできなかったりすることがある。
4	近所での遊び友だちが少なくなる。
5	学校がある地域と住んでいる地域との連携が難しい。
6	地域でも「〇〇の家庭が選択制で他校に行く」「なぜ地元の学校に行かせないのか」と話題になっており、地域内での関係に影響があるのではないかと推察されます。
7	地域性が損なわれる。
8	「学校は地域に根ざしているもの」の精神に反する。
9	通学区が広くなり、保護者や地域でのつながりが希薄となる可能性がある。

④【学校運営上の問題】 11件

1	次年度の児童数を見通すことが難しい。
2	児童数が確定するのが遅れるため、僅少数の学級数はもちろんのこと職員の定数の確定が遅れることになり、正規ではなく期限付きの職員配置が増える可能性が高まる。
3	運動会の花火(の音)が聞こえなくなり、個別対応が難しい。
4	都市部の学校では、学校独自の取組でも、交流が進められる中で、良い取組はすぐに広がっていくため、学校の特色が出しにくい。保護者からの過度な要望が出てきた場合に対応していく時、負担になっていく危険性がある。
5	学級数の確定や教職員数や校務分掌人数に影響がでることもある。
6	入学者の確定まで、学級数の見通しがたたないこと。
7	単式学級編制できるところが複式学級となるなど、教育活動に影響があると思います。
8	年度初めの児童生徒数が確定できない。
9	入学する人数が読めず、人事配置や学級編制をする際に苦しいときがあります。
10	生徒数・学級数の数年後の見通しが立てにくい。したがって教員数についても見通しが立てにくい。
11	大多数の生徒が、本来の校区で進学している状況を考えると、選択の理由が学習面よりも部活動に偏りつつある。そのため、専門の指導者が確保できなくなると今後の学校経営に問題が発生する可能性がある。

⑤【指導上の問題】 12件

1	校区外からの通学となるので、集団下校が難しい。
2	集団下校などの際に、本来の校区内のグループへの所属が難しいため、別対応となり、そのための指導スタッフが必要である。
3	家庭訪問の範囲が広くなり時間がかかるようになる。
4	通学区域が広がることにより、新1年生の入学期の下校指導や暴風雪や不審者対応などの集団下校体制、緊急時の保護者引き渡し訓練など危機管理上の問題点がある。
5	家庭訪問などで校区外に担任が出なければならず、移動距離が広がる。
6	集団下校訓練等の際に、帰宅経路が違うことにより連絡体制等に細かな手立てが必要になる。
7	緊急時の対応。
8	災害等で下校指導を含め 個別の対応が難しい。
9	児童の存する家庭の範囲が広がるため、朝の登校時、下校時の安全を見守るPTCAの活動や集団下校時の職員配置が、難しくなっている。
10	危機管理上の課題。集団下校等。
11	家庭訪問や問題行動の指導時に、広範囲にわたって対応しなければならなくなる。
12	災害時には、広範囲への対応となり引き渡し等で混乱が生じる可能性は高まる。

⑥【その他】 8件

1	選択する権利があるという発想は、義務教育にあってはなかなかなじみにくいのではないのでしょうか。特別支援学級については市内どこでも自由に選択できるとか、担任に対して不満があれば担任を選択できるはずだ、場合によっては来年の担任を選ばせてほしいなどというやや誤った考え方につながる危険を持つように感じます。不登校傾向など、特別な場合にはその子に寄り添って柔軟に対応することが必要になることはあると思います。
2	保護者の校区への意識が薄くなり、安易に転校ができるという考えに立つように思われる。
3	本校にとっては、学校選択制を超えての入学なので、相当な特色や魅力がないと入学まで至らないので、厳しいのが実態です。
4	中学校では選択生徒が部活での選択をしている現状がある。
5	一部の強い部活動のためにという考えもあるが、あまりエスカレートしない方が良い。
6	市教委が調査した結果で選択理由を見ると、「学校と家の距離が近い」「友人が通っているから」という内容が多かったようです。これが、制度が導入された折に期待された効果としてあげられていた「学校の活性化」「保護者が学校に積極的に係る意識や責任感の向上」にどの程度つながっているのか、学校運営をする中で十分に把握することが難しいです。
7	小学校時の悪い人間関係の解決ができないままそれぞれの中学に進学する。
8	本校を選択する生徒はおらず、他校を選択する生徒がいるため生徒減につながっています。

問2 選択できる学校の範囲を今の隣接校方式から、範囲を「広げた方が良い」という声の一部の保護者からありますが、そのことについてどのようにお考えですか。

①【賛成、どちらかという賛成】 12件

1	希望する部活ができないという場合は、特例があってもよいと考えます。
2	保護者の責任の範疇で意見を聞き入れてもよいのではないかと。
3	危機管理上の課題を解決した上で、広げた方がよい。
4	学校選択肢の幅が広がることは、それを望む家庭においては喜ばしいことである。同時に、選択期間の選択肢も広げないとリスク（人間関係、部活動等）を背負ったときに子どもへの影響が大きくなると思われる（失敗は許されなくなる）。
5	学校間で生徒数のバランスが崩れ、学校運営に支障をきたさないのであれば。
6	保護者の責任において登下校の安全が確保されるなら。
7	通学するなど、安全面で可能なら。
8	問題傾向のある生徒がある学校に集まるということが生じなければ。
9	選択制を続けるなら、問題はない。
10	市内を自由にする方がわかりやすい。
11	よいと思う。
12	通学の安全が保障されれば可能ではないかと思いますが、いくつかの学校に集中することが懸念されます。

②【反対、どちらかという反対】 33件

1	一度教育行政の目玉的に実施したことは、簡単にはやめられないと思います。しかし、範囲を広げるとは保護者の送迎が当たり前となったり、登下校で長い距離を一人で歩くことになるなど、児童生徒の安全上・健康体力づくり上の観点からも問題を含むと思います。私は義務教育での選択制度自体、賛成できません。
2	現状でよいと思います。
3	新入学児童数の偏り等が予想されるので、現行のままでよいと考えます。
4	選択範囲を広げるにより保護者に際限なく選択の自由感覚が生まれ、校区の存在意味や意義が薄れてくる。
5	範囲を広げると登下校の手段が問題となる。保護者の送迎などの責任のもと行われるよう仕組みの中に明確にする必要がある。
6	下校後の交友関係を築くことが一層難しくなる可能性がある。
7	登下校の安全面に心配が一層生じる。
8	徒歩で通学できる範囲が望ましいので、広げない方がよい。
9	問1のデメリットがさらに広がる。
10	今の範囲を超えないほうが良いと思います。安全面や地域とのつながりを考えると現状でいいと思います。
11	現状の隣接校方式で良いと考えます。子どもたちは、地域で育つ、地域に育てられるという教育面があります。地域を広げすぎると、地域を大切にしたい（地域愛・地域の方との触れ合い、地域の誇り等）が薄れてしまうと考えます。
12	個々が抱える問題も様々なので、状況に応じての対応になると思いますが、基本的には学校という集団生活の場での適応力を身に付けさせることが大切だと思うので、特別な理由がない場合、安易に範囲を広げない方が無難と考えます。
13	今以上に拡大すると、PTA活動などへの参加が難しくなる家庭が出てくることも考えられる。保護者同士のつながりを考えると、これ以上広げないほうが良い。
14	登下校の方法等についてしっかり検討する必要がある。
15	反対の職員が多かった。 理由は問1のデメリットが広がるため。
16	小学生の場合、公共交通機関の利用が保護者の送迎がなければ難しい。現行の範囲で良いと思う。
17	本来、学校ごとに校区が定められているので広げる必要はないと考えます。次年度からは学校運営協議会が発足し、地域とともに子どもを育てる取組が進んでいきます。その観点からみると小学校段階での学校選択制には疑問が残ります（特別支援学級などの特別な場合は除きます）。選択制で他校を選んだ場合の通学は保護者の責任ですが、遠距離になるほど事故のリスクも高まるので避けたほうが良いと思います。
18	通学方法の検討が必要。
19	災害時の対応が難しい。
20	小学生の登校、下校時の安全の観点から、現状から範囲を広げない方がよい。
21	良くないと思われる。マイナスの要素が多いと考えます。
22	メリット・デメリットを考慮する必要があり、早急には難しい。
23	通学距離は近い方がよい。帰宅後の近所（地域）に友人がいることは大切。
24	範囲を広げることによって通学方法が多様になり、放課後の活動に支障がある。安全面（特に冬期間）でも心配。
25	希望する家庭だけ個別に対応すればよい。
26	原則、現在の隣接校方式でよい。ただし、部活動の場合は、将来学校単位から地域（複数校）になるかもしれないという視点も持つ。
27	今以上に通学区域が広がり、交通事故や防犯など安全上の懸念がある。

28	中学校は、部活動が最優先のポイントになる。現状維持が望ましい。
29	義務教育段階では、登下校も関連が出てくると思うことから、生徒の負担が気がかりとなるところ。
30	本校にとっては、デメリットが増えます。
31	現状では、大きな問題とはなっていないが、選択の幅を広げることで、学校間の格差（選ばれる、選ばれない）が大きくなるか心配される。
32	保護者の要望に応え、選択の幅を広げることは重要かもしれませんが、市町村立学校であるからには、登下校への対応や緊急時の対応について、市としての方向性を示していくことも必要になると考えます。
33	部活動での選択が増えると、今の本校以上に金銭的負担も大きくなる可能性があり、その保証についてもあらかじめ策を考えていただきたい。

問3 現在は、選択できる学年は翌年度小学校あるいは中学校に入学する新1年生ですが、「他の学年でも選択したい」という児童生徒と保護者の意見もあります。このことについてご意見をお聞かせ下さい。

①【賛成、どちらかという賛成】5件

1	他の学年での選択も、認めて良いと思う。
2	選択制を続けるなら、問題はない。
3	よいと思う。
4	子どもの意思を尊重する観点から言えば、可能な限り転校してもよいことにしてあげたい気持ちもあります。その際、変更の理由の明確化や回数の制限などが必要だと思います。
5	人間関係の悪化や不登校など、学校生活に不安を感じた場合にリセットできるという意味では、選択肢が広がります。

②【反対、どちらかという反対】35件

1	どうやらあちらの学校がよさそうだ、と転校することが横行しそうに感じます。消費者のニーズに応えるという発想では教育は成立しなくなるように思います。1年生のみで継続するよう希望します。
2	現状でよいと思います。
3	現行のままでよいと考えます。
4	選択範囲を広げるにより保護者に際限なく選択の自由感覚が生まれ、校区の存在意味や意義が薄れてくる。
5	選択できる学年の拡大は、学校にとっては、学級編制上問題がある。
6	他の学年での希望は、現行の区域外通学の制度の範囲の中で行ってはどうか。
7	広げない方がいいと思う。兄弟関係や次年度の学級編制などに課題が出てしまう。
8	他の学年の選択はやめたほうがいいと思います。各学校の対応業務が大変になるし、安易な転校はよくないと思います。ただ、野幌小のように、江別市特認校への転校は今まで通り、いいと思います。
9	年度始めの学級編制や学校体制に混乱が生じると考えられるので、現状のままで良いと考えます。
10	個々の状況に応じて考えていかなければならない問題だと思います。友達関係のため不登校につながる恐れがある等、緊急を要する場合は、早急な対応が必要だと思いますが、学校の指導が合わない等、身勝手な要望であれば、転出先の学校への負担になりかねない場合も生じます。入学前に、選択をしっかりとってもらい、その条件に合った学習環境で頑張らせることが何よりも大切なので、編入させる場合は、面談等をしっかりとしたうえで、慎重に進めていくことが必要だと思います。
11	現状のままでよい。転入や転出はどの学年でもあるが、選択できる学年が増えるとなると、学年集団づくりが不安定になる面があると考えます。
12	いじめや不登校等の理由により、これまでどおり、校区外転入は保護者の申請により委員会が判断することによりよい。
13	学校現場としては、保護者の選択に任せることになる。

14	反対が多かった。保護者の考えで出入りが激しくなり現場の混乱が増えるため。しかし、特別の場合は認めたほうが良いという意見もあった。
15	他の学年での実施は避けたほうがよいと思います。 他の学年でも行われると、場合によっては学級減となることもあり校内の職員数に影響し、校務分掌の配置等にも影響すると考えられます。
16	明確な理由があるなら、仕方ない。しかし、「先生が、施設が…」ならば、無理に推し進める必要を感じない。
17	現状のままでよい。事情がある場合、通常の転校手続きを踏んで移ってもらう基本通りの方針でよいと思います。児童数の増減が毎年起きる可能性があり、先を見通した学校運営が難しくなります。
18	現行通りでよい。
19	選択する学年を増やすと言うことは、学校現場に混乱が起きると思われます（進路を踏まえた学級の落ち着き、宿泊を伴う旅行的行事の準備など）。
20	特別の事情を除いては現状のままで良い。
21	希望する家庭だけ、個別に対応すれば良い。
22	このままで良い。
23	指導の継続性に課題が残る。現ルールの維持がベスト。
24	現状で良い。途中で転校という形になるのは相当エネルギーを使うことになる。 不登校など個々の事情で移る時は別途相談可の特殊事情とする。
25	校区内の学校に通学できるのが一番ですが、何らかの事情が出たときはその理由を考慮して転校も可とすれば現状通りで良い。
26	他の学年の場合は、基準など設ける必要もあるが、これも難しい。
27	あまりに落ち着かない。混乱するのでは。
28	中学校の場合は、原則現行通りで良い。
29	学級編制をする際に児童生徒数が読めず苦慮することがあるのではないかと思います。
30	学級数の増減につながり、学校編制替えなどの可能性が大きくなる。
31	中学校においては現状を維持すべき。制服・ジャージ等の問題あり。
32	他の学年で可能とした場合、生徒数によっては学級減・学級増への対応に問題が生じる可能性がある。教員定数等の問題につながる。
33	担任が嫌だからという理由で、多数の転出があった場合、特に現状では中2から中3の持ち上がりの中学校が多い現状では混乱が起きる可能性はないか。併せて中2の終わりから修学旅行の準備があり、支障が出ることも予想される。
34	一貫教育という点で、賛同しかねます。
35	現実的にそのような状況に陥る生徒の状況は、学校を変わるといった環境の変化だけで一変するものではないと考えます。保護者からの要望があることは間違いないと思いますが、教育という長い時間のかかる営みを途中で中断することなく続けられる形を残すことも大切だと考えます。

問4 学校選択制により、「特色ある学校づくり」あるいは「地域一体型・学校の顔づくり事業」との関連で、これらを進めようという教職員の意識が高まったかどうか、ご意見をお聞かせ下さい。

① 【高まった、どちらかというが高まった】 6件

1	本校は、他の学校より特色ある学校として、教職員の理解や意識はとても高いです。学校行事など教職員の共通理解・連携のもと、積極的に進めています。
2	年によっては5～6人の選択がある。魅力ある学校、選択される学校づくりに、教職員の実践意識の向上に、一定の役割を果たしていると考えます。
3	学校に特色を持たせようとする意識は高まりました。
4	どのように成果を上げているかという面では高まった。
5	高まっている。
6	本校では「音楽による学校づくり」を5～6年前から新たに取り組んでいる。その前は福祉をテーマにした取組であった。生徒たちの歌声を本校の特色としたり、音楽鑑賞等の地域への案内をししたり、吹奏楽部による定期演奏会、施設等訪問など教職員には意識化されており、そのことが指導にもつながっている。

② 【高まってない、どちらかというが高まってない】 22件

1	自分の学校を選択してもらうために、他校との競争意識をもって学校づくりを進めるという感覚はありません。選択制を含めて、「自校の子どものために全力をつくす」それだけだと思います。選択制拡大の目的はどのようなことでしょうか。子どものためを考えた発想ではないように感じます。
2	学校選択制がなくても、教職員の意識が高まるよう努力しています。
3	地域一体型学校の顔づくり事業等は、地域と一体になって取り組む姿勢は、本校地区に関しては、教職員、地域の方々ともに高い。
4	学校選択制の実施があるからといって指摘の事業の推進の意識が高まることにはつながらない。
5	市立の学校のように、児童生徒数を多く集めることは本来の目的にはなっていない。
6	学校選択制に関わらず、「特色ある学校づくり」には取り組んでいる。地域一体型の取組として「ワクワクふれあい祭り」を開催しているが、自治会との連携した取組をしているので、選択制は地域一帯の取組になじまない。
7	学校の様々な取組に対しては、高い意識で取り組んでくれていますが、学校選択制に関する意識はあまり感じてはいないと思います。本校においては、特色のある学校づくりとして見守り活動や読み聞かせ等の活動を、地域や保護者のボランティアの方に展開していただいておりますが、独立した活動となっており教職員との接点が弱く、あまり意識を高める活動にはなっていないのが現状です。
8	特色ある学校づくりなどは常に考えなければならない課題と捉えており、選択制によって高まったとは言いきれない。
9	本市では学校選択制が定着しているので、それほど意識化が高いとは言えない。
10	特色ある学校づくりについては、意識を持っている。学校選択制により高まったかと問われればわからない。
11	学校選択制と地域一体型・学校の顔づくり事業の関連性があるという職員がいなくあまり関連がないととらえている。
12	人を集めるために、特色ある学校づくりをしているのではない。特色ある学校づくりをしているから、それに賛同している人が集まってくる。
13	学校選択制があるために「特色ある学校づくり」あるいは「地域一体型・学校の顔づくり事業」を進めようという意識が高まったとは感じられない。
14	選択制により高まったかどうかは判断できないが、コミュニティースクール導入に向けて高めていかなければならない。
15	部活については学校のカラーが濃く出ているが、それ以外はあまり感じない。
16	特に変わってない。
17	選択制は絡んでない。

18	選択されるために…という意識はない。
19	生徒の力を伸ばすことが第一義であり、「特色ある学校づくり」あるいは「地域一体型・学校の顔づくり事業」は、そのための方策の一つでしかない。先生方の教育への情熱は、学校選択制のあるないに関わらず、注がれている。
20	特色ある学校づくりは、選択制に関係なく教職員全員が日ごろから意識し取り組んでいることと思います。
21	学校選択制とは別に、日頃から特色ある学校づくりや学校の顔づくりに取り組んでいる。
22	関連を感じません。
23	学校としては、従来から地域との連携や生徒の実態に応じた様々な特色ある学校づくりに努めてきました。そのため、学校選択制による特色ある学校づくりへの意識の変化を確認するのは難しい状況です。

問5 学校選択制により、保護者の学校運営に対する関心が高まったかどうかについて、感想、ご意見等がありましたらお聞かせください。

①【高まった、どちらかというが高まった】13件

1	本校の保護者は、本校を自ら選択して入学している意識が強く、学校に対する理解はとて高く、協力的で好意的である。また、本校の保護者は、積極的に他の保護者や幼稚園・保育園に紹介しようと活動もあります。今回は、本校紹介のパンフレットづくりに、PTAボランティア活動として意欲的に進めてくれています。
2	各学校の特色に関心を持つ保護者が増えていると感じられます（HPのアクセス数が増えている）。
3	授業公開日等で、入学前の保護者の方の参観が多く見られるなど、意識はかなり高まっているのではないかと思います。また、参観に来られた方から特別支援学級などに関する質問などもあり、学校選択制のねらいに関してはかなり浸透しているのではないかと思います。
4	少なからず高まっていると思われる。特に中学校進学にあたって、より子どもの希望や個性にあった学校を選ぼうとしていることは感じられる。
5	多少は高まっていることと思う。
6	事情を抱えている家庭にとっては、高まっているのではないかと。
7	学校選択制を利用しようとする保護者にとって、該当の学校運営に対する関心が高まると思う。
8	選択した学校に対する、期待は高いと考える。
9	あまり、この視点で調べてみてはいないが、その学校の学校運営に関心があるから、選択するものだと思っています。
10	判断は難しいが、HP検索数は各学校アップしているのではないかと。
11	基本的に高まった。
12	学校選択制と同時に、市内一斉公開日等、学校がよりオープンになってきたので関心が高まった保護者は増えた。
13	基本は保護者にとって我が子が充実した学校教育活動を享受できることがポイントと考えることから学校選択制には一定の評価ができると思う。しかしながらそのことが学校運営に及ぼす保護者の要望と考えるとき、独善的な考えによることも多くなってきているのではないかと。

②【高まっていない、分からない】 12件

1	地域の学校としてコミュニティスクールを推進しようとするのであれば、地域に根ざした子ども・保護者・学校づくりが必要です。選択制により保護者全体の意識が高まることは少ないのではないのでしょうか。
2	学校選択制がなくても、保護者の関心が高まるよう努力しています。
3	保護者の関心の変化については、特に感じ取る機会がなく、日常的にはあまり変化を感じない。
4	保護者が安易に学校を選ぶという意識にならないか心配である。保護者が、自分の子の学校、地域の学校としてボランティアやPTA活動などに関わろうという意識づくりに逆行しないか心配である。
5	学校選択制により学校運営に対する関心が高まったかは、保護者に聞いてみないとわからない。現場としては、「学校選択制により」とは、考えていない。
6	もともと「地元の学校」という意識が強い地域なので、従来と変わらず協力的です。
7	本制度により関心が高まったとは感じられないです。
8	特に変わっていない。
9	高まっていない。昨年度11月、入学者の保護者を対象に説明会を計画し、対象小学校に協力を願って、案内を500枚程度配布したものの、出席者は0人だった。
10	学校に通う距離が長くなった分、保護者の足も遠のいているかもしれません。
11	学校選択制とは別に、保護者の関心を高める努力をして行かなければならない。
12	学校では自己評価や生徒・保護者アンケートなどを活用したPDCAサイクルの構築による学校運営や学校改善プランによる学校力向上策など、これまでも様々な取組を行いながら学校経営に努めて参りました。したがって、学校選択制と学校運営の直接的関係だけを取り上げて考えることは難しい状況です。

問6 学校選択制により、どのような変化（教職員、児童生徒、保護者など）が見られたかご自由にお書き下さい。

1	特認校には、その意義や良さがたくさんあると思いますが、学校選択制に強く興味を持つ人は比較的一部の方々であり、学校のあるべき姿に大きな影響を及ぼすべきではないように感じます。
2	自校を選択した児童、または、逆に自校から他の学校を選択した児童が、それぞれ、どんな理由でそのような選択をしたかが分からない。学校がそのことを知る必要はないのか。
3	教職員は、本校で覚悟を持って学校経営を理解し意欲的に精力的に業務を推進してくれています。子どもたちも、自己肯定感・自尊感情も高く本校の学校生活を楽しんでいます。保護者も、本校の良さを知り学校行事などに協力的であり、自ら楽しんでいる。
4	残念ながら学校選択制のある学校に赴任してきたばかりで、変化を感じるところまで至っていません。しかしながら学校に通学している生徒の様子や保護者の方と話す限りでは、本校に対する誇りや愛着心は高く、毎日元気をもらっているところです。
5	選択制実施当初はそれぞれに変化が見られたかもしれないが、年数を経るにつれ当たり前前の制度として受け入れられているのが現状だと思われる。
6	自らが選択して入学したという意識をもつことが大切であるが、大部分は校区の保護者であるので、この学校に登校させることが当たり前という意識がほとんどである。
7	保護者にとっては、学校選択の余地があり、関心は高いのではないかと思う。
8	メリットやデメリットがあり、多少の影響があるけれど、あまり変わらずに推移できていると思う。
9	他市町村からの転入教職員にとって、一定の緊張感を生んだ。
10	保護者間で「〇〇さんは選択制で他校へ行った」「△△さんは地元の学校」という会話がされており、地域の一体感に多少影響があるのではないかと思います。
11	教職員に、大きな変化を感じない。特に小学校は、保護者も教職員も、「小学校は地元」の感覚があるのではないか。
12	本制度による変化が見られたとはいえないと思います。
13	特に、中学校部活動への取り組みが高まったのではないか。

14	教職員は一層きめ細かい見通しを持った指導が求められる。
15	学校がよりオープンになってきているのは良い。
16	選択した生徒・保護者にとっては良い。その他はあまり変わっていない。
17	特に部活動の分野で目的をもって中学校に通う生徒は増えた。
18	良くも悪くも生徒同士の他校との交流が盛んである。
19	本校も含めて、各学校が選択制のメリットをより理解し、広報活動に努める必要がある。
20	中学校の場合は、ほとんどが部活動絡みと考える。従ってそれに見合う専門的指導者の確保が人事面に現れることは、教職員・生徒・保護者にとっても関心事であることは間違いない。
21	選択制を利用して入学する生徒の多くが、部活動で選んでいるように感じます。その意味で選びやすい状況になったのは良いことですが、公立学校である限り、どんなに部活動で選んでくる生徒が増えたとしても、学力向上に向けた取り組みをしないと、特別な支援はしないというわけにはいかないのが、教職員への負担が増していくように感じます。

問7 学校のPRなど情報発信の部分で学校における課題あるいは市教委に何か要望がありましたら、お聞かせ下さい。

①【学校側の努力課題】 6件

1	多様化する問題を解決していくためには、地域や家庭との連携がますます大切になってきますが、そのためには学校からの情報発信が何より重要になってきます。学校が目指すものは何か、課題が何か、協力して欲しいのは何か、また、一方通行の情報発信ではなく、地域や保護者からの意見を聞き入れ、改善がどのように進められているか、目に見える透明性を高めて行かなければならないと思っています。
2	就学時健康診断や一日入学の際に、学校として「しおり」を作るなど学校の様子を紹介したりしているが、学校HPの閲覧ができるようアドレスを載せるなど、保護者が学校の情報により広く接することができるよう、学校としての工夫が必要になっていると思われる。
3	職員数の少ない学校では、情報発信の業務に人を割くことが難しいです。
4	地域とのより深い連携。
5	学校は、生徒を多く集めるために、成果をあげている自校の教育活動をより多く情報発信することが必要だと思いますが、周りの学校とのバランスも考慮するなど、なかなか難しい面があります。
6	先日、インターネットで本校の評判を見る機会がありました。卒業生？や保護者？が書き込んでいます。このようなページを見ると各小中学校と委員会が連携した情報発信を行うことが必要なのかも感じました。

②【市教委へ要望】 6件

1	市の予算が厳しいのは理解しますが、是非とも、本校へのスクールバスの設置を切に希望します。
2	今年の春より、目に見えるタイムリーな情報公開としてブログによる情報発信を始めましたが、セキュリティーの関係で制約があり、学校間の情報交流とまではいっていません。情報の流失、ウイルス問題など課題はありますが、使いやすい環境をもう少し整えて頂けたらと考えています。
3	学校を選ぶ際の施設状況（老朽化等）については、その差をなくして行ってほしい。
4	市内統一説明会は基本的に校区の生徒対象の説明会なので、選ぶための説明会を実施するのであれば、別日程で実施するなどした方が良いと思います。
5	一斉、説明会の開催。
6	学校選択制への保護者の要望が拡大する傾向にあることは認識しています。ただ、部活動の有る無しや、人間関係のトラブルにより学校選択制を活用するのが長短両面があります。元には戻すことはできません。だから拡大する場合も十分な検討が必要だと考えます。

問8 今後の学校選択制のあり方について、何かご意見等があればお書き下さい。

1	選択制を拡大していく方向性には、反対である。
2	どうしても校区の学校では通えない子のみの一時避難的な制度でいいと思う。
3	<コミュニティースクール（CS）の導入と関連した学校選択制の位置付け> CSは学校単位で行うのか、中学校区単位になるのか、それともどんな単位で考えているのか、学校単位以外であれば、小中の連携を含めた9年間の見通しを持った教育課程が必要になってくると思われるが、そうなってくると特色ある学校経営においても影響が出てくると思われます。現段階では、どんな形でのCSを考えているのか見えていないので、不安材料の一つとなっています。
4	保護者の教育要求に応えるためには、選択制も一つの方法ではあると思うが学校が混乱することのないよう、当面は現状のままでよいと思う。
5	校区の学校においても、保護者や生徒が選択して入学したという意識化が図られることが大切である。
6	保護者にとっては、いい制度だと思う。学校としては、安全面の配慮をしっかりとしていかなければならないと思う。
7	学校一斉公開日を年2回実施しているが、このときに他校区の住民が見学に来る機会がある。さらに1回程度、機会を増やして欲しい。
8	小規模校にとっては、予定していた児童が入学してこないのは影響が大きいです。また町から離れていることもあり、町中の隣接校ほど簡単に通学することができないと思います。
9	学校を選択する際のポイントに「放課後の学童の有無がある」と保護者から聞いたことがあります。本校では学童がないため、他の学校を選択する保護者が今後も増えることを懸念しています。
10	少数の意見をないがしろにするわけでもないが、どれだけの人が選択制の拡大を望んでいるのでしょうか。現行の募集枠より、少しだけ多いのであれば、少し幅を持たせる程度の変更でいいのでは。たくさん希望者がいるのであれば、この制度自体の大幅見直しが必要になるのではないのでしょうか。
11	小学校段階では、学校選択制を導入するメリットよりも、学校が遠くなることによるデメリットの方が心配です。中学校における部活動の有無のような、学校の特色の違いは、小学校ではきわめて小さいものと思います。
12	特別支援学級の生徒は登下校の負担を考えて、選択制ではなく地域の小学校、中学校に通った方がよいと思います（地域で見守るという観点でも）。
13	今後少子化が進んでいる状況から、中学校においては部活動のあり方が大変になると思われる。先生の数の減少により、部活動の存続ができない学校も出てくると思います。また自分が行く中学校にやりたい部活がない場合などのケースに対応してあげることも必要になってくるのではないかと。
14	地域（校区）の学校に通うのが義務教育であれば、選択制は本来的ではない。良いか悪いかは判断できない。
15	極端に生徒の人数が変化することはないのか、気になった。
16	現状で良い。
17	学校選択制はなくても良い。特殊事情は臨機応変に。ただし、部活動については、学校単位から複数校単位に、指導者はチーム学校的な外部指導者も活用したい。
18	児童生徒数が減少する昨今、公立の学校の性質上、各学校が児童生徒の奪い合いをするようなことのないようにしていきたいと思います。
19	特に、中学校では部活動の競技種目と専門的な指導者の確保等が毎年課題となっています。学校規模としては、一学年4学級規模を下回ると指導者の確保が厳しくなります。このように考えると学校規模の確保から、近い将来、生徒数の減少と合わせて統廃合も視野に入れた政策の検討も必要と思われます。勿論、部活動も大事ですが、教科指導の面においても免外申請をできるだけしなくて済むような教職員配置にもつながります。学校選択制については、生徒・保護者の要望が優先されることが望ましいのですが、その要望を優先することにより、経営・運営面に支障が出ることは極力避けたいものです。